

北川敬一さん制作

吃音に向き合うため

のドキュメンタリー映像集「ただ、そば

にいる」全3巻

2年間のつどい(2009年3月のお料理教室でミネストローネスープを作った時から、2010年11月の演劇レッスン「木龍うるし」まで)に参加して下さった方々、スタッフで撮ってもらった方々が大勢映っています。

## 観ての感想

山野 佑子 (小4C君のお母さん)

初めてつどいに参加したのは2年前、息子が2年生の夏でした。あのサマーキャンプで息子は劇的に変わり、親子で吃音について話せるようになりました。つどいは、息子にとって必要な居場所なんだと感じました。ただ、あの場でどのようなことをしたのか、このDVDを観るまで知りませんでした。

まだ7歳だった息子は、私にも話した事のなかった、学校での辛い思いを正直に話し、そしてみんなの話を聞いていました。これが、今まで心の奥底にしまっていた思いを吐き出させたのだと、理解出来ました。

私もサイコドラマで、吃音の友達を助けようとす友人を演じました。少し外れてしまいますが、実は私は中学生の頃いじめに合い、クラスでは誰からも話してもらえず、一人でいた時期がありました。辛くて精神のバランスを崩してしまいました。そんな時、あまり話をした事のないクラスメート二人が、声をかけてきてくれました。どんなに嬉しかった事か！！それから氷が溶けるように、クラスメート達も話をしてくれるようになり、私は無事生還を果たしたのです。

本当に一人でもいい、辛さを分かってくれる友人がいれば、学校生活もより楽しいものになるのでは

**DVD完成!**

ないでしょうか。そんな友人になりたいと思って演じていました。

いろいろな思いが詰まっている、この素晴らしいDVD。本当は、吃音を理解出来ない、してくれない子供達、先生達に観てもらえたらどんなにいいかと思ってしまう。

M. O

(小6Sちゃん、中2K君のお母さん)

私自身も「今の時代にこんなビデオがあったらいいな〜!」とずっと思っていたDVDでした。「キラキラ」他吃音に関する本は多数出版されていますが、生の等身大の子供達がどもりながらどんなことを考えているのか、同じ年齢位の子供達がDVDの向こうでもっていたら、DVDを見た子供達や親達はどんなに安心するでしょうか。ことばの教室の先生方は、担当している子供達に聞けない、本当は聞きたいことを生の声で聞くことができると思いました。待ち望んでいたDVDだと思いました。

中高校生のつどいのスタッフの皆様のご苦勞の結晶ですね。ありがとうございました。私達の時代より次の世代の子供達が吃音に対しての悩みが少しでも少なくなりますよう、吃音があっても堂々と生きていかれますよう、悩みを打ち明けられる環境でありますよう、吃音がより認知されますよう、今年もよろしく願いいたします。

吉田 雅代 (小6男子のお母さん)

完成をととても楽しみにしていました。ドキドキしながら観てみると、そこには笑顔が一杯!胸がしめつけられるような言葉も沢山ありましたが、それでも仲間と笑い合う自然体の子供達、青年達の姿がありました。

最近朝日新聞に息子の吃音についての記事が連載されましたが、これもDVDができたからこそ実現したことです。取材を受けるに当たり、吃音に関する今までのことを振り返ったのですが、本当に色々なことがあったなあと改めて実感しました。子供のために何ができるのか、私もそんなことばかり考えていたような気がします。

記者の方はとても丁寧に取材して下さいました(吉田家を3度訪問)ので、息子の沢山の経験や抱えていた思いも記事からしっかり伝わったのではないのでしょうか。

「ただ、そばにいる」から始まって、ジワリジワリと(いつも北川さんがおっしゃっています)吃音の事を知る人が増えると嬉しいです。孤独に悩んでいる吃音の親子が少しでも不安から解放され、笑顔になればもっと嬉しいです。

長い取材期間を経て、全3巻、約5時間半という素敵なDVDを作って下さった北川さんには、ただただ感謝の気持ちで一杯です。

どうか少しでも多くの人たちに観てもらえますように・・・。